

2017年度③

商 法

(全 2 ページ)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入ください。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りください。

商 法③

I 約束手形法における裏書の連続の意義と効果について、説明しなさい（150字以内）。(20点)

II 次の問題〔1〕と〔2〕につき、それぞれ解答しなさい。その際、単に結論を示すだけでなく、結論を裏付ける理由についても簡潔に示しなさい。(80点)

〔1〕 甲株式会社（以下、「甲社」）は、食品輸入・販売を事業目的とする公開会社であり、監査役設置会社である。甲社は、大会社ではなく、上場会社でもない。甲社は、京都府を中心に近畿圏でその事業を展開している。甲社の取締役は、代表取締役社長A、代表取締役副社長Bのほか、代表権のない業務執行取締役のCおよびDと、社外取締役のEの合計5名である。また、甲社の総資産は6億円、資本金は1億円である。Aは、その長男であるFに自分の後をついで甲社の経営にあたって欲しかったが、現在甲社の営業部長の地位にあるFはほとんど実績もないのに社内で威張りちらすことから、Bをはじめとする他の甲社の取締役や従業員からすこぶる評判が悪かった。こうした中で、Aは個人で100%出資して乙株式会社（以下、「乙社」）を設立し、その代表取締役にFが就任した。乙社は、滋賀県を中心に近畿圏で、食品輸入・販売事業を開始した。乙社が丙銀行から1億円の融資（以下、「本件融資」）を受けようとしたところ、丙銀行は、FとAに対して、甲社の保証（以下、「本件保証契約」）がなければ融資は実行できないと回答した。そこで、Aは甲社の取締役会を招集し（以下、「本件取締役会」）、本件保証契約についての承認を求めた。本件取締役会で、Aは、乙社につき100%個人出資の会社であるとは説明したが、その事業テリトリーは中京圏との虚偽の説明を行い、また、Fの乙社代表取締役への就任も説明しなかった。本件取締役会では、本件保証契約の締結につき、AとCが賛成し、Bが反対するとともに、DとEは欠席した。丙銀行は、本件取締役会の議事録を甲社から徴求した後に、本件融資を実行した。その1年後に乙社が倒産したため、丙銀行は、甲社に対して本件保証契約の実行を求めた。

以上の事実関係のもとで、甲社が、丙銀行に対する保証契約の実行を拒めるかどうかについて検討しなさい。(40点)

[2] X株式会社（以下、「X社」）は、和洋菓子製造・販売を事業目的とする公開会社であり、監査役設置会社である。X社は、大会社ではなく、種類株式発行会社でもない。X社の取締役は、A、B、C、Dの4名であり、その中で、Aが代表取締役である。Aは、X社の創業者（故人）の長男であり、Bは同じくその次男、Cは同じくその長女である。Dは、X社の取引銀行の出身である。X社の定款上の発行可能株式総数は5万株であり、現時点での発行済み株式総数は3万株である。なお、X社は、現時点で自己株式は保有していない。A・B・Cは、各々、X社株式1万株を保有している。近年、AとB・Cの間でしばしば経営方針をめぐる意見に対立が生じており、不安にかられたAは、自派の持株比率を増加させるための募集株式の発行を企てた。平成29年2月1日、X社は、取締役会を開催し（以下、「本件取締役会」）、Aは、その議案として募集株式2万株の発行を提案した（以下、「本件新株発行」）。本件新株発行の割当先は、パンの製造・販売を事業目的とするY株式会社（以下、「Y社」）単独とし、その発行価額は、公認会計士の評価を経て、1株1000円とされた。また、本件新株発行の目的は、Y社との関係の強化と説明された。本件取締役会は、本件新株発行を全取締役の賛成で承認した。ところが、実際には、X社の株価（1株あたり）は、どのような評価方法を用いても1株2000円を上回っており、また、AとY社の間では、本件新株発行後に速やかに、Aが、Y社から2万株のすべてを、1株1100円で買い取るとの合意がなされていた。同年2月2日、X社は、官報で、本件新株発行の公告を行い、同年2月20日に、Y社が2万株のすべてにつき、払込みを終えて、本件新株発行の効力が生じた。その後、同年4月1日に、Y社は、Aに2万株のすべてを1株1100円で譲渡した。同年5月1日に、BとCは、Y社からAによる買戻しの事実と適正なX社の株価を聞き出した。

以上の事実関係のもとで、同年5月の時点で、BとCが本件新株発行の瑕疵について争う手段（訴訟上の手段）について述べるとともに、その請求が認容されるかどうかにつき検討しなさい。(40点)